

## 昭和60年度作況一覽

秋播小麦	大豆	小豆	菜豆	ばれいしょ	てんさい
良	良	不良	不良	平年並	平年並

### I. 気象概況

4月から10月までの概況は次のとおりである。

4月：

上旬は気温が高かったため、融雪が進み、根雪(長期積雪)終わりは平年より4日早い4月6日であった。積雪期間は124日で平年より3日短かった。中旬は降水量が少なく、ほ場の乾燥が進んだ下旬は気温が高かった。日照時間は平年並であった。耕鋤始めは、4月23日で平年より5日早かった。晩霜は4月29日で、平年より4日早かった。

5月：

平均気温は上、中旬が平年並で、下旬は平年より0.8度低かった。各旬とも少なかった降水量は19.5mmで平年より47.1mm少なかった。日照時間は平年より多かった。

6月：

各旬とも最低気温が平年より1.4～1.9度低かったため、平均気温は上旬が0.9度、中旬が1.2度、下旬が0.5度低かった。降水量は上旬が5.0mm、中旬が1.0mm下旬が2.0mmと極めて少なく、月合計は8.0mmで平年より64.3mm少なかった。日照時間は各旬とも多かった。

7月：

平均気温は上、下旬が平年並で、中旬は平年より1.9度低かった。7月1日には57.0mmを記録した降水量は、上・中旬が多く、下旬は少なく、合計で121.5mmとなり平年より49.7mmを記録した降水量は上中旬が多く、下旬は少なく平年より49.7mm多かった。日照時間は平年並であった。

8月：

気温は各項目とも平年より高く、平均気温は上旬が1.5度、中旬が3.0度、下旬が2.7度平年より高かった。上旬が0.0mm、中旬が9.0mmと少なかった。降水量は66.5mmで平年より114.8mm少なかった。日照時間は平年より多かった。

9月：

平均気温は上旬が0.5度高かったが、中旬は1.9度平年より低かった。降水量は中、下旬が少なかったが、上旬に低気温の影響で191.0mmを記録して208.5mmとなり、平年より110.3mm多かった。日照時間は平年より多かった。

10月：

平均気温は上旬が0.5度高く、中旬が平年並、下旬が0.7度低かった。降水量は97.0mmで平年より24.4mm少なかった。日照時間はほぼ平年並であった。降雪始めは10月23日であった。初霜は10月20日で平年より6日遅かった。無霜期間は173日で平年より10日長かった。

以上、農耕期間(4月～10月)の積算平均気温は3132.7度で平年(3090.8度)より41.9度高かった。気温の高かったのは5月および8月上旬から9月上旬にかけてであり、それ以外は前半に平年並ないし低めの気温であった。降水量は598.5mmで平年(647.4mm)より48.9mm少なかった。月別では5月が平年の29%、6月が11%、8月が37%と少なく、逆に9月は平年の213%と多かった。日照時間は各月とも平年より多く平年(1329.4時間)より170.5時間多い1499.9時間に達した。

### 季節表

年次	根雪始 (59年.月.日)	根雪終 (月.日)	積雪期間 (日)	降雪終 (月.日)	耕鋤始 (月.日)	晩霜 (月.日)	初霜 (月.日)	無霜期間 (日)	降雪始 (月.日)
本年	12.4	4.6	124	4.20	4.23	4.29	10.20	173	10.23
平年	12.7	4.10	125	4.14	4.28	5.3	10.14	163	10.29
比較	△3	△4	△1	6	△5	△4	6	10	△6

注) 平年値は過去10年間の平均。△は減を示す。

### 農耕期間の積算値

項目 期間	平均気温 (℃)	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
4～10月					
本年	3,133	4,202	2,052	599	1,500
平年	3,091	4,147	2,033	647	1,329
比較	42	55	19	48	171
5～9月					
本年	2,626	3,398	1,845	424	1,142
平年	2,625	3,362	1,888	490	978
比較	1	36	△43	△66	164

注) 平年値は過去10年間の平均。△は減を示す。

## II. 昭和60年度の作況

### 1. 秋播小麦 昭和60年度の作況:良

事由:秋季の生育は、播種後の降雨が少なく、低温に経過したことにより平年よりやや劣った。融雪期は4月6日で平年に比べて4日早かった。融雪時の滞水がなく、雪腐病の発生は少なめであった。春季の生育は、4月中・下旬が高温に経過し、茎葉伸長が順調であり、茎数も多く推移した。5月上旬以降、6月下旬までの寡雨、多照な気象経過により出穂期が早まり、平年に比べて「ホロシリコムギ」で1日、「タクネコムギ」で3日早かった。しかし、寡雨、干ばつ傾向に経過した割には影響が少なく、稈長は平年を上回り、7月1日の風雨によって両品種とも全面倒伏した。

成熟期は、倒伏したため枯れ上がりが悪く、平年に比べて2~3日遅れた。登熟期間が概して多照に経過したことにより病害の発生が少なく、倒伏による千粒粒の低下は少なかった。また両品種とも穂数が多く、特に「タクネコムギ」は平年を37%上回り、穂長は短くなったが高収入となった。

10a当り子実重は「ホロシリコムギ」で601kg、平年比120%、「タクネコムギ」は565kg、平年比126%の高収を示した。

以上により、昭和60年度の作況は良である。

品種名 項目/年次	ホロシリコムギ			タクネコムギ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(昭59.月.日)	9.14	9.14	0	9.14	9.14	0	
出穂期(昭60.月.日)	6.12	6.13	△1	6.4	6.7	△3	
成熟期(昭60.月.日)	7.29	7.27	2	7.24	7.21	3	
草丈 (cm)	昭59.10月20日	18	19	△1	16	23	△7
	5月20日	53	40	13	50	41	9
	6月20日	105	98	8	111	95	16
茎数 (本/㎡)	5月20日	1194	1055	139	1140	894	246
	6月20日	804	536	68	740	568	172
成熟期に おける	稈長(cm)	100	95	5	94	89	5
	穂長(cm)	9.5	8.9	0.6	7.8	8.5	△0.7
	穂数(本/㎡)	566	539	27	729	533	196
子実重(kg/10a)	601	502	99	565	447	118	
千粒重(g)	42.6	45.3	△2.7	40.1	40.6	△0.5	
品質(等級)	2上	1	—	1	1	—	
子実重平年対比(%)	120	100	20	126	100	26	

注) 平年値は前5か年平均。

## 2. 大豆 昭和60年度の作況:良

事由:播種期は5月15日で平年より3日早かった。播種後は、極度の干ばつにより出芽は極めて不統一であった。出芽期は平年より3~4日早かったものの、出芽後の降水がほとんどないことにより、6月中の生育は抑制された。しかし、7月1日と11日に適度の降水にめぐまれたことにより生育は回復した。7月下旬より8月上中旬は高温寡雨に経過したために土壌水分は不足気味に経過したが、いずれの品種も生育は進み、開花期は2~5日早まった。登熟期の前半の生育は、降水量は平年に比べて多かったが、気温が高く経過したことにより順調であった。しかし、9月下旬から低温寡照に経過したことにより登熟はやや遅延し、成熟期は「北見白」で平年より3日遅れ、「ユウヅル」「ユウヒメ」はほぼ平年並であった。主莖長は3品種とも平年に比べて長かった。主莖節数も3品種のいずれもが平年をやや上回っている。分枝数は「ユウヅル」で平年よりやや劣ったが、「北見白」と「ユウヒメ」では平年を上回った。着莢数は3品種ともに平年を上回り、「北見白」で19.8莢、「ユウヅル」で10.9莢「ユウヒメ」で15.6莢多かった。百粒重はいずれの品種も平年より低かった。子実重は平年に比べて「北見白」が111%、「ユウヅル」110%、「ユウヒメ」104%と多収であった。これは3品種のいずれも着莢数が平年に比べて10.9~19.8莢多かったことが増収に結びついた。品質は「ユウヒメ」でしわ粒が見られたことにより劣り、「北見白」と「ユウヅル」は平年並であった。以上により、昭和60年度の作況は良である。

品種名 項目/年次	北見白			ユウヅル			ユウヒメ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(月.日)	5.15	5.18	△3	5.15	5.18	△3	5.15	5.18	△3	
出芽期(月.日)	6.2	6.5	△3	6.6	6.9	△3	6.6	6.1	△4	
開花期(月.日)	7.24	7.26	△2	7.29	8.3	△5	7.25	7.28	△3	
成熟期(月.日)	10.7	10.4	3	10.18	10.18	0	10.6	10.7	△1	
主莖長 (cm)	6月20日	8.0	8.2	△0.2	6.7	8.0	△1.3	8.6	8.4	0.4
	7月20日	34.7	27.3	7.4	31.8	24.0	7.8	32.3	26.8	5.5
	8月20日	61.2	57.2	4.0	74.9	67.0	7.9	59.1	57.0	2.1
	9月20日	61.2	57.2	4.0	74.9	72.3	2.6	59.1	56.2	2.9
	成熟期	61.2	57.4	3.8	74.9	71.0	3.9	59.1	56.9	2.2
主莖節数 (節)	6月20日	1.0	0.7	0.3	0.5	0.6	△0.1	0.7	0.6	0.1
	7月20日	7.3	6.5	0.8	6.1	5.8	0.3	6.2	5.8	0.4
	8月20日	13.6	12.5	1.1	16.2	13.6	2.6	13.4	11.8	1.6
	9月20日	13.6	13.5	0.1	16.2	15.2	1.0	13.4	12.6	0.8
	成熟期	13.6	13.2	0.4	16.2	15.2	1.0	13.4	13.0	0.4
分枝数 (本/株)	7月20日	3.2	2.1	1.1	2.3	1.1	1.2	2.9	2.4	0.5
	8月20日	5.9	5.2	0.7	4.5	4.7	△0.2	6.7	5.9	0.8
	9月20日	5.9	5.2	0.7	4.5	5.1	△0.6	6.7	6.2	0.5
	成熟期	5.9	5.4	0.5	4.5	4.7	△0.2	6.7	5.8	0.9
着莢数 (莢/株)	9月20日	93.2	72.6	20.6	64.3	53.6	1.7	68.3	53.0	15.3
	成熟期	93.2	73.4	19.8	64.3	53.4	10.9	68.3	52.7	15.6
子実重(kg/10a)	342	309	33	307	278	29	302	291	11	
百粒重(g)	25.4	26.1	△0.7	40.1	40.3	△0.2	40.8	42.3	△1.5	
虫喰率(%)	0.4	0.5	△0.1	1	1.3	△0.3	0.5	1	△0.5	
品質(等級)	2	2	—	2	2	—	4	2	—	
子実重平年対比(%)	111	100	11	110	100	10	104	100	4	

注) 平年値は前7か年中、昭和53年、56年を除く5か年平均。ただし、「ユウヒメ」は前6か年平均。6月および7月の主莖節数は本葉数。

### 3. 小豆 昭和60年度の作況:不良

事由:播種は「宝小豆」が不手際のため6月5日で平年より15日遅く「エリモショウズ」が5月16日で平年より1日早かった。出芽期は「宝小豆」が平年より3日遅れたが「エリモショウズ」は平年より3日早い6月3日であった。出芽後は6月下旬までのやや低温および降雨不足のため生育は停滞気味であったが、7月上旬および中旬の降雨で7月20日の作況は平年並みであった。その後も主茎長、主茎節数などの生育はおおむね順調で、開花期は「エリモショウズ」がほぼ平年並み、播種期の遅れた「宝小豆」が平年より6日遅い8月5日であった。しかし、7月下旬から8月中旬までの極端な降雨不足および8月上旬から9月上旬までの高温が影響して登熟が急激に進んで莢先熟となり、成熟期は「エリモショウズ」が昨年並の9月3日、播種期の遅れた「宝小豆」が平年より3日遅れの9月13日であった。成熟期における着莢数は平年より劣り、さらに一莢内粒数は平年に比べ約10%減少した。このため百粒重は平年並みかやや重くなったが、子実重は平年に比べて「宝小豆」が92%、「エリモショウズ」が91%であった。また莢先熟でやや刈遅れとなったため地面に接していた莢の腐敗や過熟粒があり屑粒率が平年より多く、検査等級は3上～3中で平年より劣った。

以上により、昭和60年度の作況は不良である。

品種名 項目/年次	宝小豆			エリモショウズ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(月.日)	6.5	5.21	15	5.16	5.17	△2	
出芽期(月.日)	6.19	6.16	3	6.3	6.17	△14	
開花期(月.日)	8.5	7.30	6	7.26	7.25	1	
成熟期(月.日)	9.13	9.10	3	9.3	9.4	△1	
主茎長 (cm)	6月20日	4.8	3.3	1.5	4.8	3.3	1.5
	7月20日	8.9	14.4	△5.5	8.9	14.4	△5.5
	8月20日	33.6	44.4	△10.8	33.6	44.4	△10.8
	9月20日	32.8	45.4	△12.6	32.8	45.4	△12.6
主茎節数 (節)	6月20日	0.8	0.8	0.0	0.8	0.8	0.0
	7月20日	4.1	5.6	△1.5	4.1	5.6	△1.5
	8月20日	12.0	12.0	0.0	12.0	12.0	0.0
	9月20日	11.2	11.8	△0.6	11.2	11.8	△0.6
分枝数 (本/株)	7月20日	0.8	1.5	△0.7	0.8	1.5	△0.7
	8月20日	2.8	3.2	△0.4	2.8	3.2	△0.4
	9月20日	3.1	2.8	0.3	3.1	2.8	0.3
着莢数 (莢/株)	8月20日	26.4	32.6	△6.2	26.4	32.6	△6.2
	9月20日	35.8	39.9	△4.1	35.8	39.9	△4.1
一莢内粒数(粒)	5.46	6.01	△0.55	5.38	5.96	△0.58	
子実重(kg/10a)	200	217	△17	211	232	△21	
百粒重(g)	11.9	10.5	1.4	11.7	11.6	0.1	
屑粒率(%)	5	2.2	2.8	3.7	2	1.7	
品質(等級)	3中	2	—	3上	2	—	
子実重平年対比(%)	92	100	△8	91	100	△9	

注)「宝小豆」の平年値は前7か年中、昭和55年、56年を除く5か年平均。ただし、一莢内粒数は前3か年平均。「エリモショウズ」の平年値は前年の値。

#### 4. 菜豆 昭和60年度の作況:不良

事由:播種は平年より4日遅い5月27日に行った。播種前から土壌は干ばつ気味であった。播種後も降水量が著しく少なく干ばつ状態が続いた。このため出芽が著しく遅延し、平年の出芽期の時期で、出芽率6.6%であった。7月1日の降雨で未出芽の種子が吸水を始め、平年に比べて25日遅れて、7月8日に出芽期に達した。開花始は7月20日で平年に比べて3日遅れた。しかし、この開花株は6月中旬に出芽したものであって、開花期は8月3日で平年に比べて13日遅れ、出芽の遅延が著しく影響した。8月20日の調査では平年並に回復したが、主莖節数、分枝数は少なく、莢数は開花の遅れで平年に比べて株当たり7.1個少なかった。8月20日以降の主莖長、主莖節数、分枝数の増加はなかったが、莢数は増加し平年並になった。しかし、未熟莢が株当たり5.3個みられ莢数は平年に比べて劣った。一莢内粒数は平年に比べて1.4粒少なく、百粒重も平年に比べて4.1gとった。このため子実重は10a当り175kgで平年比58%であった。また、品質もしわ粒が多く4等級であった。

以上により、昭和60年度の作況は不良である。

品種名 項目/年次	改良早生大福			
	本年	平年	比較	
播種期(月.日)	5.27	5.23	4	
出芽期(月.日)	7.8	6.13	25	
開花期(月.日)	7.20	7.17	3	
成熟期(月.日)	9.25	9.10	15	
主莖長 (cm)	7月20日	84	251	△167
	8月20日	307	303	4
	成熟期	301	304	△3
主莖節数 (節)	7月20日	9.7	18.8	△9.1
	8月20日	25.5	27.1	△1.6
	成熟期	25.5	27.1	△1.6
分枝数 (本/株)	7月20日	1.3	4.8	△3.5
	8月20日	2.9	3.5	△0.6
	成熟期	2.5	3.4	△0.9
着莢数 (莢/株)	8月20日	28.1	35.2	△7.1
	成熟期	39.5	44.6	△5.1
一莢内粒数(粒)	2.81	4.21	△1.40	
子実重(kg/10a)	175	301	△126	
百粒重(g)	64.8	68.9	△4.1	
屑粒率(%)	4.7	2.8	1.9	
品質(等級)	4中	3上	—	
子実重平年対比(%)	58	100	△42	

注)平年値は前5か年中、昭和56年を除く4か年平均。ただし、一莢内粒数は前2か年平均。成熟期以外の主莖長・主莖節数・分枝数・着莢数および成熟期の主莖節数は前年の値。

#### 5. ばれいしょ 昭和60年度の作況:平年並

事由:植え付けは5月1日で平年より3日早かった。植付け後、寡雨、多照に経過し、最高気温が高かったことにより萌芽が始まり、萌芽期は平年に比べて8日～12日早かった。引き続き6月下旬まで寡雨に経過したため干ばつとなり、莖葉伸長は抑えられた。とくに、早生の「男爵薯」は干ばつの影響を強く受け、莖長は短く、落蕾して開花を見なかった。

「農林1号」の開花期は平年より3日早かった。その後、7月1日に降雨があつて、「農林1号」の生育は回復し、莖長は平年を上回った。7月下旬より再び寡雨となり、9月上旬まで高温に経過したことにより夏疫病の発生が多く、莖葉枯凋がはやまった。枯凋期は、平年に比べて「男爵薯」が6日、「農林1号」で8日早かった。

上いも重は「農林1号」は10a当り4687kg、平年比117%と高収、「男爵薯」は平年比89%と低収であった。でん粉価は両品種とも平年よりやや低下した。

以上により、昭和60年度の作況は両品種を総じて平年並である。

品種名 項目/年次	農林1号			男爵薯			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
植付期(月.日)	5.1	5.4	△3	5.1	5.4	△3	
萌芽期(月.日)	5.26	6.3	△8	5.25	6.6	△12	
開花期(月.日)	6.30	7.3	△3	—	7.5	—	
枯凋期(月.日)	9.17	9.25	△8	8.30	9.5	△6	
莖長 (cm)	6月20日	19	22	△3	15	18	△3
	7月20日	58	54	4	24	40	△16
	8月20日	68	61	7	30	45	△15
莖数 (本/株)	6月20日	5.0	4.5	0.5	5.0	3.9	1.1
	7月20日	4.6	4.7	△0.1	5.2	3.6	1.6
	8月20日	4.6	4.9	△0.3	4.1	3.8	0.3
上いも重(kg/10a)	4,687	3,996	691	3,093	3,456	△363	
でん粉価(%)	14.5	15.3	△0.8	14.4	14.7	△0.3	
でん粉重(kg/10a)	633	571	62	414	473	△59	
上いも重平年対比(%)	117	100	17	89	100	△11	
でん粉重平年対比(%)	111	100	11	88	100	△12	

注)平年値は前7か年中、昭和56年、58年を除く5か年平均。「上いも」は20g以上の塊茎である。

## 6. てんさい 昭和60年度の作況: 平年並

事由: 播種は4月3日に行った。移植は平年と同じ5月4日に実施した。移植直後に適度な降雨があり、活着は概ね良好であったが、強風の日が多く、生育は停滞気味であった。6月は降水量が平年の11%と、極めて少なかったため、ほ場が乾燥した。そのため、晴天の日に葉が地上に接するほど、地上がしおれ、生育はやや不良であった。しかし、7月1日に57.0mmの降水量があり、それまでつづいたほ場の乾燥状態が解消された。その後、地上部の草丈の伸長、葉数の増加ならびに根部の肥大が急速に進んだ。8月の降水量は少なかったが、特にこれによる影響はみられず、地上部と根部の生育は順調であった。9月1日に109mmの降水量がありほ場が水分過剰となったため、地上部がしおれ、生育は一時停滞した。しかし、その後の好天により、生育は再び旺盛となった。この地上部と根部の旺盛な生育は収穫まで続いた。

収穫期における根部は肥大がよく、根重は平年より90%多収の7.01t/10aであった。収穫期になっても、地上部の生育が旺盛であったため、葉の退色はほとんど見られなかった。この生育遅延のため、根中糖分は低く、平年比86%の14.29%であり、近年になく低糖分であった。以上、本年のてん菜は対平年比、根重が109の多収であったが、根中糖分が86の低糖分であった。

以上により、昭和60年度の作況は平年並である。

品種名(栽培法) 項目/年次		モノドリ(移植)		
		本年	平年	比較
播種期(月.日)		4.3	4.5	△2
移植期(月.日)		5.4	5.4	0
収穫期(月.日)		10.15	10.16	△1
草丈 (cm)	5月20日	5.0	4.7	0.3
	6月20日	20.9	22.3	△1.4
	7月20日	58.1	48.8	9.3
	8月20日	60.7	53.5	7.2
	9月20日	60.5	56.6	4.0
	収穫期	61.2	52.4	8.8
葉数 (枚)	5月20日	4.0	3.2	0.8
	6月20日	9.3	10.1	△0.8
	7月20日	19.9	18.6	1.3
	8月20日	25.3	24.7	0.6
	9月20日	28.1	29.0	△0.9
	収穫期	28.4	29.7	△1.3
根周 (cm)	7月20日	23.6	22.1	1.5
	8月20日	31.2	30.3	0.9
	9月20日	36.2	34.5	1.7
	収穫期	38.8	38.8	1.4
茎葉重(t/10a)		6.78	5.03	△0.92
根重(t/10a)		7.01	6.42	0.21
根中糖分(%)		14.29	16.57	△0.61
糖量(t/10a)		1,002	1,064	3
根重平年対比(%)		109	100	9
根中糖分平年対比(%)		86	100	△14
糖量平年対比(%)		94	100	△6

注) 平年値は前7か年中、昭和52年、55年を除く5か年平均。